

大学合格レポート

立志塾大学受験科卒業生インタビュー



立志塾 美濃加茂校
高木 脩平 君
加茂高校 理数科
2012年卒業

■合格大学
名古屋大学 法学部
同志社大学 法学部
立命館大学 法学部
中央大学 法学部 他

高校生活はサッカー一色だった高木くん。受験まであと7ヶ月と迫った高3の6月に立志を訪ねた。名大に現役合格できた彼の「秘訣」とは?

部活三昧だった高校生活

—高木君は、高校時代、サッカー部だったのかな?

高木: はい、部活三昧でした(笑)。

—じゃあ、部活三昧だった頃を思い出してほしいんだけど、立志塾に入塾するまでの間、どこかで勉強していたのかな。

高木: いいえ、どこにも通っていませんでした。

—じゃあ、高1・高2の間は、自分で勉強をしていたということかな。

高木: 勉強って言っても、定期テスト前にテストのための勉強をちょっとするくらいで、本当に部活三昧でした。

—そうすると、立志塾美濃加茂校が開校した高3の3月から初めて受験を意識した勉強を始めたということかな。

高木: はい、入塾したのは、部活を引退してからなので、高3の6月の中旬くらいです。

部活引退からの速習プラン

—えっ? 高3の6月から勉強を始めて、名古屋大学をはじめ、同志社、立命館、南山、中央と名だたる大学に合格するって、相当大変だったと思うんだけど、どんな勉強をしたのかを教えてください。

高木: 自分は家では勉強できないので、塾に来て自習室で勉強するって決めました。

—なるほど。勉強する環境を切り替えることで、勉強に集中できるようにもっていったということだね。高木君の受講履歴を見ると、ベーシックウイング高校理科を6月終わりから9月終わりまで受講しているよね。

高木: はい、ベーシックウイングで物理の勉強をしました。

—えっ? 高木君は文系だよな。物理でセンター試験を受験したの?

高木: はい。

—それはチャレンジャーだね。じゃあ、ベーシックウイングを使ってどんなふうに勉強を進めたのかな。

高木: 例題を見て、解き方をマスターして、その後、練習問題を解いて、解き方を自分に染み込ませるようにしました。

—やり方としてはオソドックスなんだけど、物理Iだけでもかなりの数になるよね。

高木: 授業の再生速度を速くして見ていたので、どんどん先に進めました。

—いわゆる「速習」をしたんだね。センター対策の理科の講座を受講していないみたいだけど、センター理科の対策はこれだけでOKだったのかな。

高木: はい。あとは、センターの過去問を解いて実践的な力をつけた感じです。

天王山の夏、そして仕上げの秋

—そして、受験の天王山と言われる高3の夏のこ

高3の6月、部活引退から本気の7ヶ月で、名古屋大学合格!

とを思い出してほしいんだけど、高木君は夏にZ会の教室映像の英語、文系数学、小論文を受講しているよね。Z会の教室映像の授業はどうだった?

高木: ベーシックウイングに比べて、やはり難しかったですね。最初は、予習をして授業を受けるようにしていたんですけど、自分では解けない問題が多くて…。だから、一通り問題を見て、解けなさそうな問題は映像授業で解き方をマスターして、あとから自力で解き方を染み込ませる流れになりました。

—なるほど。Z会の教室映像は予習して受講するのが基本だけど、高木君は復習に重点を置く勉強方法で取り組んだということだね。ベーシックウイングと同じようなスタンスで勉強を進めたということかな。

高木: そうですね。

—復習重点型ということだけど、解きなおしは何回くらいやったの?

高木: さっとできるものは1回、ひっかかるものは2~3回解きなおしました。

—そうやって、解法を染み込ませていったんだね。そうすると、夏の勉強時間はだいたいどれくらいだったのかな。



高木くんが受講したZ会の教室映像。夏の間は毎日4時間受講していた。

高木: 映像授業を受講するのは1日4時間くらいで、あとは塾の自習室で復習をしていました。朝から晩までというほどではありませんでしたが、けっこう長くいましたね。

—スタートが遅かった分、高3の夏にガッツリ勉強したって感じだね。そうして、夏が過ぎ

て、高3の秋。高木君は、Z会のセンター倫理・政経を受講するんだけど、社会は2科目必要だよな。もう1科目は?

高木: 世界史でした。

—じゃあ、世界史は自分で勉強したのかな。

高木: それが、世界史は本当に苦手で、なかなか頭に入りませんでしたね。

—じゃあ、私は倫理政経で受験したのかな?

高木: はい、数学で受験しました。

—そうすると、高木君は主にセンターのみで必要な科目を映像で受講したってことかな。

高木: はい。センター試験で高得点をとることを目標に勉強を進めていたので、自分ではできないところを受講した感じです。

—名古屋大の2次とか、私大で必要な科目の勉強はどうしていたのかな。

高木: あくまでも、名古屋大に合格することだけを考えていたので、私大のための勉強というのはほとんどしてなくて、名古屋大の2次に向けての勉強も、センターが終わってから一気に取り組んだ感じです。

—なるほど。じゃあ、高3の秋は、センター試験高得点に向けて、自分の弱点となりそうな科目の勉強を中心にしていたわけだ。ウイングネットを受講する以外に、どんな勉強をしていたのかな。

高木: 過去問はかなりやりました。

—過去問ノートとかは作っていた?

高木: はい。過去問を解いて、ミスをしたところはそのノートにまとめました。世界史なんかは、何回も解いているうちに似たような問題が出ていることに気づいて、よく出るパターンみたいなものをそこでまと



6月から7ヶ月間勉強した美濃加茂校の自習室。

めました。

スランプを乗り越えて

—そうして、センター対策を中心に勉強を進めて、いよいよ、入試本番直前。ずっと勉強が続いていると嫌になったり、やっても思うように点数が伸びないことってあったと思うんだけど。

高木: 勉強が嫌になりかけた時の気分転換には、地元の中学の体育館なんかを使って、フットサルの試合があったりすると、それに参加したりして、とにかく体を動かしました。

—サッカー一筋でやってきた高木君ならではのね。思うように伸びないスランプは、どうだった?

高木: やはり、世界史がスランプというか、ずっとできないままでいました。ただ、入試本番では、その直前にやったセンター系の模試よりも30点も多く得点できたんです。それまで、全然頭に入ってこなかったのが、入試直前になって急に頭に入ってくるようになったんです。最後にまとめとしてウイングネットのセンター世界史も受講して、結果としてそこそこの点数が取れました。

—それは、わからないながらも、地道に粘り強く世界史の下地を作ってきたからだね。今、試験本番の話が出たから、試験当日のことをちょっと聞こうかな。やっぱり緊張した?

高木: 緊張しました。でも、同じ会場に友達も受験しにきていたので、友達と話して気持ちを紛らわしました。

—試験に臨むに当たって、自信をもって望んだ科目は?

高木: 気持的には数学でした。結果的には国語の現代文がよかったんですけど。

—そういえば、国語はどんな勉強をしていたの?

高木: 立志塾の可児校の方で、隔週で行われるライブ授業を受けていました。

—じゃあ、ライブ授業と映像授業とをうまく組み合わせ、勉強を進めたんだね。ところで、高木君は何かなりたい職業と具体的なものがあるのかな。

高木: はい、司法書士を目指しています。実家が、事務所をやっているの。

—なるほど、だから受験校は全て法学部で、なおさら勉強にはずみがついたんだね。最後に、君のあとに続く後輩たちにメッセージをお願いします。

高木: 映像授業は、授業を受けるとわかったような気になるんですね。でも、あとで問題を解いてみると解けないことが僕の場合は多かったんです。だから、必ず自力で解けるまで解きなおしをすることが大切だと思います。

—高木君、ありがとう。司法書士目指して、これからもがんばってください。

(2012年4月29日 立志塾可児校にて)